公開用

平成２７年度蕨市保健センター運営委員会　議事録

日　時　平成２８年２月４日
午後１時３０分～午後３時
場　所　保健センター（健康教育室）

＜出席者＞

委員：飯野朗子委員長　羽根田高洋委員長代理　岡元弘子委員　小島淳子委員　鈴木芳美委員　山脇紀子委員　大石圭子委員

事務局：石丸岳広所長　小林桂子保健指導係長　小川有紀子庶務係長　髙橋律子保健師　細野亜紀子保健師

＜欠席者＞

委員：田中義枝委員　菅谷理委員　金子健二委員　柳原登子委員

配布資料：①「資料　平成２７年度蕨市保健センター運営委員会」②「平成２６年度蕨市保健事業統計」、③「わらび健康アップ計画情報紙　健康密度も日本一のまちへ」、④「母子保健実施状況」、⑤「精神障害者福祉」

議事

＜（１）平成２６年度・平成２７年度事業実施状況について＞

◆事務局説明：平成 26 年度・平成 27 年度の新規事業を中心に説明

○委員長：乳幼児健診未受診者への通知効果はどうか。

事務局：未受診者に通知すると翌月の受診者が多い。未受診者へのアンケート調査の結果では、既に病院で受診している人も多い。未受診者は、長期間不在の外国人も多い。虐待などの関連性もあるので、引き続き見守っていきたい。

○委員長：未受診者に通知をしても、受診しないケースはあるのか。

事務局：ほとんどない。以前国の調査があったときには、蕨市は全数把握ができている。こんにちは赤ちゃん事業訪問でも、ほぼ全数把握できている。母子のケースカンファレンスを毎月行っており、30～40 件のフォローケースがあるが、母子担当の保健師の中でも情報交換をしながら、対応にあたっている。

○委員長：新生児訪問時に母親の産後うつの状態を確認していると思うが、実際に発見できたケースはあるか。

事務局：ある。ＥＰＤＳというううつ状態のチェックを行うとともに、訪問時に指導員が気になるケースは、必要な支援につなげるなどの対応をとっている。

委員長：成果が分かっていいと思う。

○委員：がん検診の受診人数が増加しているが、個別通知の結果だと思う。検診の申込者が増加した分はどのように対応したのか。

事務局：メディア報道の影響で、乳がん検診の反響が大きく申込者が殺到した。申込者全員の受診を可能にするため、乳がん検診日を急遽、７日間追加し受診体制を整えた。今年度、個別通知を行ったため、保健センターに申込が必要な検診は、併せて申し込みをする人が多く、大腸がん検診などの受診率も伸びた。

○委員：歯周疾患検診の受診人数が減少した理由はなぜか。

事務局：以前は、節目年齢の方に歯周疾患検診の案内を個別に送付していたが、今年度は、統合受診券の中で案内している。通知や啓発方法などは、今後の検討課題として受診率向上に努めていきたい。

○委員：民生委員は、赤ちゃんからお年寄りまで、生活する上でお困りの方を福祉につなげていく努めを担っている。未受診者の子どもたちがどうなっているのか、気にかかっていたが、ほとんどの人が受診していると聞いて安心した。保健センターのかかわりの中で、育児放棄や虐待などにつながった事例はあるか。

事務局：未受診者の中には、児童福祉課主管の虐待ケースが含まれている。毎月会議を開いて対応を検討しているので、網羅できていると思う。

委員：健診に来ない人はいるのか。

事務局：長期不在の外国人もいる。児童福祉課に依頼して入国管理局に確認してもらい連携した対応を取っている。

○委員：65 歳未満の人で、アルコール依存など精神疾患の方の対応に苦慮している。保健センターで対応をしてもらうこともあり、懸命に対応していただいているが、１か月に１回の訪問では間に合わない場合もある。何人の保健師が携わって、どのような指導をしているのか具体的に教えてほしい。

事務局：成人に関しては地区別に担当者を設け、４名の保健師で分担して業務にあたっている。

委員長：１人の保健師がいろいろな健診や乳児・精神関係などを兼任しているのか。

事務局：４名ずつ母子担当と成人担当で分かれており、精神障害の関係は成人担当が行っている。乳幼児健診などは成人担当も入ることもあり、さまざまな業務を兼任している。特に、精神関係は緊急の対応が必要になることが多い。

委員：高齢者に関することは、民生委員で対応できる部分が多いが、精神障害の関係は、専門性が必要になり対応が難しい。保健センターに対応の協力をお願いしたい。

事務局：精神障害に関しては、保健所の指導を受けながら連携をはかり取り組んでいる。

委員長：精神障害などは、本来は福祉部門の業務だが、保健センターで業務を行っており、業務が増えても職員数が十分でなくて、人手が不足している。市民の健康につながるように人数を確保してほしい。

○委員：がん検診が個別化されて事務量が増えてきていると思う。事務量の多さが保健師本来の業務に影響してきている。市全体で人件費削減の方向ではあるが専門職を補充していかなければ将来的に大変になると思う。健康密度も日本一をめざしていくため、事務量を工夫していくなどの方向性は見えているか。

事務局：保健師の事務処理量が多く、保健センター内だけでは処理できなくなってきている。統合できるような業務は、部署を越えた協力体制を構築し、専門職がもっと活躍できるようになるとよいと思う。

○委員：出産直後に不安になり、相談ができずスマートフォンで情報を検索しメニエール病にかかってしまうというケースがあった。アウトメディアだけでなく、相談体制をさらに充実させてほしい。

事務局：アウトメディアに関しては、講座を増やしていくことも検討中、教育委員会とも連携をはかっていきたい。

＜（２）ウォーキングと筋力アップで健康密度も日本一プロジェクトについて＞

◆事務局説明：健康長寿埼玉モデルの一環として今年度より開始した「ウォーキングと筋力アップで健康密度も日本一プロジェクト」の取組内容について説明。

○委員長：市民の反応はどうか。

事務局:今年１月 24 日にウォーキングのイベントを行ったところ､29 名の参加があり、モニター以外の参加もあった。モニターやトライアルの人も埼玉りそな銀行に設置されたわらび健康アップステーションに足を運んでいただいている。途中でやめる人は少ない。活動量計を励みに自ら運動してもらえるところがよい。

○委員長代理：平成 27 年度・28 年度の実施期間がずれる理由を教えてほしい。

事務局：平成 27 年度は、埼玉県からの決定通知に基づいて事業を開始したので、時期が遅くなった。体力測定・血液検査・アンケートを開始と終了に実施する。医療費検証も行っていくので、来年度は早めに開始をしていく予定。

委員長代理：埼玉りそな銀行にあるわらび健康アップステーションの場所については、知っている人は利用しやすいと思うが、銀行を利用しない人や前を通る人には、素通りになってしまう気がする。道路側に案内などは出せないのか。

事務局：蕨市で人が集まる場所をいろいろ検討した結果、わらび健康アップステーションの場所を埼玉りそな銀行に設置することになったが、銀行という業種なので、金融庁への確認が必要になる。銀行の外に看板等の設置をするのは難しい。

委員長代理：通行する人は多いので、関心を持ってもらえると認知度が上がってよい。道路の反対側は市有地なのか。市有地ならば、看板などを設置できるとよい。

事務局：市有地であれば、担当部署に許可を取れば可能かもしれない。

〇委員：モニターで市の職員は何人か。

事務局：10 名

委員：参加者は中央地区の方が多いと聞いているが、塚越地区の人も市民公園でウォーキングをしている人が多い。塚越にもウォーキングの正しい方法のアドバイスなどをしてもらえる所ができるとよい。最近ポールウォーキングをしている人を市民公園でも見かけるので、使い方などを希望者に教えてあげられるように公民館とタイアップして講座などを開催してほしい。

＜（３）健（検）診事業について＞

◆事務局説明：がん検診の受診率等について、埼玉県内の市町村や他県の状況との比較を踏まえて説明。

〇委員長：繰り返し啓発を行って、受診率が向上する工夫をしてほしい。

〇委員：乳がん検診の受診率が向上していると聞いている。検診時に保育はあるのか。

事務局：保育は行っていないが、30 分刻みの予約制で受付を行っているので、検診時間は短い。レントゲン撮影時は、スタッフがお子さんを一時的にみているので、子連れでも受診可能。受診券でも案内をしている。

委員：よいことだと思う。受診者が受けやすい状況をつくっていただけるとよい。

＜（４）平成２８年度事業予定について＞

◆事務局説明：平成 28 年度に保健センターで予定している事業について新規事業や変更になる事業について説明。

〇委員：胃がん検診がレントゲンと内視鏡の選択制になることに伴い、自己負担額は 1,700 円で変更はないのか。肺がん検診の自己負担額が 300 円となるようだが、蕨市は 1 割相当負担を原則としているが金額の根拠を教えてほしい。

事務局：肺がん検診については、4,000 円弱かかるので、自己負担額を 300 円と設置した。胃内視鏡検査は、戸田市が既に実施しており、自己負担額を 4,000 円と設定しているため、蕨市と戸田市の料金をすり合わせた結果、平成 28 年度については、2,500 円にすることとなった。

委員：肺がん検診はこれまで無料だったが、今回自己負担金を徴収するようになったのはなぜか。

事務局：すべての検診が個別化になった場合は、自己負担金を徴収する予定で考えていた。肺がん検診の個別検診も定着してきていることから、今回自己負担金の徴収

を考えている。

委員：受診率が下がるのではないか。

事務局：下がらないと見込んでいる。戸田市は、既に肺がん検診で自己負担 300 円を徴収している。蕨市の肺がん検診の受診率は県内でも高い。70 歳以上の人や非課税世帯、生活保護受給中の人は無料になるので、大きな影響はないと考えている。

＜（５）その他について＞

○委員長代理：歯周疾患検診の節目検診以外の受診希望者が多いが、予算措置が難しい。平成 27 年度は受診率が下がった分、挽回していこうと保健センターと歯科医師会で検討を重ねている。都内通勤者が蕨市に帰ってきて受診するので、地域を認識するきっかけになると思うので予算に反映させてほしい。

○委員：保健センターの人手が足りず本来やるべき業務に支障をきたしている現状を聞いて大変だと思った。精神障害の方が増加していると新聞報道などでもよく目にする。訪問看護などの充実にも目を向けていけたらよいと思う。

○委員：歯周疾患検診の希望者全員が受けた場合の予算はどうか。

事務局：２倍以上の予算が増額となる。

委員長：寿命が伸びたので医療費が増加しているのだから、金額だけを捉えて抑制しようという考え方でなく、限られたものを効率よく使うかということが大切だと思う。歯周疾患検診に充てることによって、病気の早期発見ができ医療費抑制につながることもあると思う。すべて抑制してしまうと、将来的には医療費が増加してしまう可能性もあると思う。

委員：歯周疾患検診の今年度の決算額はまだ出ていないのか。

事務局：平成 27 年度は３月までなので決算額は決定していないが、歯周疾患検診の受診人数は前年度より下がっている。

委員長代理：歯周疾患検診の受診率が減少した件については、検討課題として取り組んでいる。

午後２時５０分、事務局より閉会を宣言。

平成２８年２月１９日議事録確定
蕨市保健センター運営委員会
委員長　飯野　朗子